

地域とともにある教育活動の推進 ～ 学校・家庭・地域で紡ぐふるさとの絆 ～

柳井市立柳井南小学校

1 はじめに

本校は、柳井市の南部、柳井湾沿いに位置し、温暖で豊かな自然に囲まれた環境にある。平成17年に伊保庄小学校と阿月小学校が統合した児童数51名の小規模校である。校区内には「八幡山古墳群」や国の重要無形民俗文化財に指定の火祭り「阿月神明祭」、また、維新の志士を多く輩出した私塾「克己堂」の表門も残っており、文化・教育への関心が高い土地柄である。開校以来、学校・家庭・地域がよりよい関係を築きながら、地域の宝である子供達を大切に育てており、恵まれた環境の下、本校の児童は、素直で優しくのびのびと育ってきている。



【教室からの風景】

本市は平成20年に「学校運営協議会」を設置し、コミュニティ・スクールとして学校、保護者、地域3者が思いを共有しながら「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいる。さらに平成28年からは「学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくり」をめざし、地域と学校が一体となって学んでいける学びの共同体「スクール・コミュニティ」として「教育のまちづくり」を進めている。それ故、学校は児童だけの教育の場ではなく、地域で生活する様々な世代の交流の場・学びの場としての役割も担っている。「楽しく学び仲良く集う」を本校のモットーとし、創意工夫をしながら地域に根ざした教育活動の継続に取り組んだ。

2 活動の実際

(1) 稲作体験

毎年、地域の方の田を体験田として借用し、保護者や「さぎ波会」を中心とした地域の方々の協力の下、児童が粃まき・田植え・稲刈り・もちつきの体験学習を行っている。しかし、5月の「集中対策期間」や1月から2月にかけての「まん延防止等対策重点措置」を受け、本年度も6月の田植えと10月の稲刈りのみの活動となった。

例年、年明け2月のもちつき体験学習では、「伊保庄餅つき唄保存会」の方から教わった「伊保庄もちつき唄」を歌いながら杵をつき、地域や保護者の方々の協力を得て自分たちで揉んだもちを全員でいただき、収穫の喜びを味わうという活動も見送ることとなった。

しかし、伝統の灯火を消すわけにはいかないという子供達や教職員の強い思いにより、全校児童が「1月の歌」として「伊保庄もちつき唄」を毎朝歌ったことで、特に初めて稲作体験をした1年生も歌詞や節回しをしっかりと覚え、ふるさとへの愛着を育み始めた。

また、5年生の総合的な学習の時間「米作りを地域の人に学ぶ」の中では、今年度も「もち米配ろう隊」が発足し地域や保護者の方々に収穫したもち米を配る活動を行った。苗から大事に育て上げた新米を多くの人に味わってもらうことで、子供達は、ふるさとの人やもの、ことを大切にすることを育んでいった。



【育てた苗を田んぼまで運ぶ5年生】



【マスクを着用しての全校田植え】



【刈った稲を手際よく運ぶ児童】

(2) 和太鼓演奏

和太鼓「皆波（みなみ）」は、学校統合の際、阿月地区と伊保庄地区の2つ地域の文化と人々の心を融合し、学校が新たな地域の核となるようにと考えられたもので、本校の伝統として、上学年から下学年に引き継がれている。児童は、「阿月神明祭」で使われている本物の「神明太鼓」を打つことに憧れと誇りを持っており、毎年、上学年児童が6月から本格的に練習を開始し、定期的に講師を招聘し、指導を受けている。今年も、講師より、コロナ禍の沈静と行事が縮小された6年生の思い出づくりのためにと新曲がプレゼントされた。本年度の主な活動は以下の通りである。



【熱心に講師の指導を受ける児童】

- ① 6月：講師来校による練習（1回）
- ② 10月：講師来校による練習（2回）
- ③ 10月：かがやき集会（児童集会）にて発表
- ④ 10月：柳井市音楽会にて発表
- ⑤ 11月：かがやき発表会(学習発表会)にて発表
- ⑥ 11月：下学年への引継ぎ



【かがやき発表会での演奏】

* 「地域活性化活動助成金」は公民館保存の太鼓の運搬費に活用（公民館 ↔ 学校）



本年度は、柳井市の音楽祭と「~~かがやき発表会~~**【2年生の柳井市音楽会での演奏】**」披露することができた。音楽会では、迫力のある本校子供達の和太鼓演奏「皆波」がオープニングを飾り、会場の雰囲気を一変させた。また、保護者や地域の方々是一年間の最後の舞台となる「かがやき発表会」での和太鼓演奏を毎年大変楽しみにされており、それを知っている子供達は万感の思いを込めて演奏に臨んだ。心と体に響く太鼓の鼓動が会場全体を包み込み、力強いかけ声と見事なばちさばきが全員を魅了した。

このように、本校の和太鼓演奏は学校文化発信の要である。和太鼓を地域の学習素材として学校の教育課程のみならず、「学校・地域連携カリキュラム」に位置づけることで、子供達が地域の伝統文化を大切に受け継ぐ心を多くの方々に知っていただくことに繋がっている。

3 成果と課題

温かな雰囲気の中で行われる「稲作体験」「和太鼓演奏」は、学校と家庭、地域とのよりよいパートナーシップの構築に向けた本校の特色ある取組として、保護者や地域の方々から毎年高い評価を得ている。この伝統的な特色ある活動を継続・発展させることで、子供達だけではなく、大人の郷土愛や地域貢献への気持ちも育むことができていると実感している。

嬉しいことに、子供達との活動を通して「子供達の姿を見ると元気になる」「子供達や地域の方々と関わる機会があり、生き甲斐の一つになっている」という感想もいただいている。安心安全を最優先に考えながら、大人も子供も皆が「楽しく学び仲良く集う」活動を通して、人づくり、まちづくりへと更に絆を広げていきたい。